



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	県営住宅茶畑団地旧棟建替事業建築工事	BEE	1.4	BEEランク	B+	★★★
------	--------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 / 5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7 / 5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0 / 5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9 / 5		がんばろう

※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
-------	----------	-----------	-------------

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①断熱等級4を満足。 ②カーテン及び庇にてグレアを制御。 ④劣化等級3を満足。空調・給排水配管は寿命の長い配管材料を採用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦断熱等級4を満足。 ⑨[BEL][BELm]=0.76	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上材が容易に区別できる素材を採用。 ⑬断熱材はフロン類を用いないA種を採用。	LR-2 1 1.1 1.2 2 2.1 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 3.1 ⑬ 消火剤 ⑬ 3.2.1 ⑬ 断熱材 ⑬ 3.2.2 ⑬ 断熱材 ⑬ 3.2.3 ⑬ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2排出率62%	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7	
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯建築基準法に定められた20%増の耐震性を有している。	Q-2 2 2.1 2.1.1 2.1.2 2.4 2.4.1 2.4.2 2.4.3 2.4.4 2.4.5	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0	
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳階高2.9m以上。	Q-2 1 1.1 1.1.3 3 3.1 3.1.1 3.1.2	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善)	LR-3 2 2.2	⑳ 温熱環境悪化の改善

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅茶畑団地B棟建替事業建	階数	地上5F
建設地	静岡県裾野市茶畑字鈴原1390-3の	構造	RC造
用途地域	法第22条区域	平均居住人員	113 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年5月13日
敷地面積	3,725 m ²	作成者	日吉 桂太
建築面積	617 m ²	確認日	
延床面積	2,517 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE#NAME?

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100). Target BEE is 1.0. Building performance is approximately 75% G and 25% L.

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

削減率: 46% (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5 (max), 4, 3, 2, 1 (min)

Q1 室内環境, Q3 室外環境 (敷地内), LR1 エネルギー, LR3 敷地外環境, LR2 資源・マテリアル

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6

音環境	2.7
温熱環境	3.8
光・視環境	3.9
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.4

機能性	1.6
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア =

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.2

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.6
汚染物質回避	3.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮	2.9
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	0
Q1 室内環境 ・開口部を適切な大きさ及び位置に計画、カーテン・庇を設置し、光・視環境の向上に配慮する。 ・基準法以上の換気量を確保及び開口部を適切な大きさに計画し、空気質環境の向上に配慮する。	Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、耐用性に配慮する。
Q3 室外環境 (敷地内) ・建物の配置、形状を街並みに調和するように配慮する。	LR1 エネルギー ・断熱等級4を満足し、建物の外皮性能に配慮する。
LR2 資源・マテリアル ・断熱材にはフロン類を用いないA種を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避するように配慮する。 ・躯体と仕上材が容易に区別できる材料を採用し、再生可能性向上への取組みを行なえる配慮する。	LR3 敷地外環境 ・省エネルギー性能の高い設備機器を採用し、地球温暖化に配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された